

事務事業評価シート (評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		いきがいきづくり推進事業				②事業番号		4506									
③事業類型		3. 政策推進事業		④開始年度		昭和		年度		⑤終了予定年度		年度		○ 設定なし			
⑥根拠法令等		法令		条例		規則		○ 要綱		計画等		その他		法令等の名称		泉南市老人クラブ連合会運営費補助金交付要綱・シルバー人材センター補助金交付要綱	
⑦実施手法		直営		全部委託		一部委託		○ 補助・負担		その他							
⑧関連予算科目コード		款		3		項		1		目		9		細目		4	
⑨担当部名		健康福祉部		⑩担当課名		長寿社会推進課								会計		一般会計	

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)		対象指標(対象者数を表す指標)		単位	
① 65歳以上の高齢者		① 人数(各年度3月31日現在)		人	
② 泉南市シルバー人材センター		② 泉南市シルバー人材センター		団体	
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)		活動指標(活動の量を表す指標)		単位	
①老人クラブに対し、その運営費の一部を補助することにより、高齢者のいきがいきづくりの場を提供する。		① 運営費補助金額(老人クラブ)		円	
②シルバー人材センターに対し、その運営費の一部を補助することにより、高齢者の雇用の促進を図る。		② 運営費補助金額(シルバー人材センター)		千円	
		③			
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位	
高齢者の趣味等活動の機会を増やし、いきがいきづくり、健康づくりを行う。		① 登録会員数(老人クラブ)		人	
		② 登録会員数(シルバー人材センター)		人	
		③			
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)		総合計画体系上の位置付け			
高齢者の自立支援いきがいきづくりにつながる。		政策(章)		2 みんなが健やかで、みんなが助け合うまち	
		施策大(節)		3 みんなで支えあう福祉のまちをめざします	
		施策中		2 高齢福祉の充実	
		施策小		3 自立支援・生きがいきづくり	

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	H31見込	R2目標	
対象指標①	人数(各年度3月31日現在)	人	17,153	17,352	17,566	17,600	—	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②	泉南市シルバー人材センター	団体	1	1	1	1	—	
活動指標①	運営費補助金額(老人クラブ)	円	3,780	3,780	3,780	3,780	—	
活動指標②	運営費補助金額(シルバー人材センター)	千円	13,400	13,400	13,400	13,400	—	
活動指標③								
成果指標①	登録会員数(老人クラブ)	人	3,055	2,855	2,843	2,850	—	
成果指標②	登録会員数(シルバー人材センター)	人	480	477	478	500	—	
成果指標③								
事業費	投入人員	人	0.26	0.26	0.26	0.26		事業費などの推移における特殊要因などの説明
	正職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	事業費	千円	2,073	2,088	2,108	2,108		
財源内訳	人件費(投入人員*単価)	千円	17,310	17,310	17,310	17,197		—
	直接事業費	千円	19,383	19,398	19,418	19,305		
	総事業費	千円	0	0	0	0		
	国庫支出金	千円	1,370	1,337	1,311	1,239		
	府支出金	千円	0	0	0	0		
財源内訳	受益者負担金	千円	0	0	0	0		—
	その他特定財源	千円	0	0	0	0		
	一般財源	千円	18,013	18,061	18,107	18,066		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	高齢者の生きがいきづくりとして府の補助金に準じて補助するもの。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	高齢化により対象者は増加するが、新規会員となる高齢者は減少している。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価

A

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	老人クラブ活動・シルバー人材センターは互助の取組の推進であり、互助の取組の推進は、高齢者が生き生きとした暮らしを継続できるための取組である。
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	老人クラブ活動・シルバー人材センターは、多様な方面の活動が必要であり、互助の推進を図る必要がある。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	2025年の超高齢社会に対応し得る体制の整備を確立する必要がある。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	2025年の超高齢社会に対応し得る体制の整備を確立するため、事業の休止・廃止は想定していない。

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔2〕の評価

A

⑤期待どおりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	高齢者に対しての互助の取組は、高齢者にとって人生と生活の質を豊かにする取組である。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)	ア. ある イ. ない	超高齢社会を豊かで活力あるものにし、高齢者自身が地域社会の中で自らの経験や知識、技能を活かして、積極的な役割を果たしていける社会の構築は、多方面からのアプローチや多様な施策と協働して推進していくことで、成果を伸ばすことが可能である。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	老人クラブへの活動の補助であり、他部署で類似事業はなし。

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価

B

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	現在、削減手法はないと思われるが、今後は、大阪府や国の新規の補助金の活用など、多方面から検討を行うことが必要。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	大阪府や国の補助金の活用。

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A: 現状のまま事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	今後も高齢者が生き生きとした暮らしを継続できるため、高齢者の互助の取組を推進する必要がある。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

ア	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止	↓ (年まで) (年から) (年から)
	<今後の展開方針> - 重点化する(集中的なコスト投入) - 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) - 効率化する(コストを下げる) - 簡素化する(規模を縮小する) - 統合する(他の事務事業と統合する)	
①改革、改善の具体案、実施年度など		—
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策		—